

鳥取西道路の遺跡を掘る!

第60号 2014年4月24日

現在発掘調査中の鳥取西道路は、鳥取市と山口県美祢市を結ぶ高規格幹線道路である山陰自動車道の一部で、一般的に「山陰道」と略称されています。

さて、その起源はいかに？

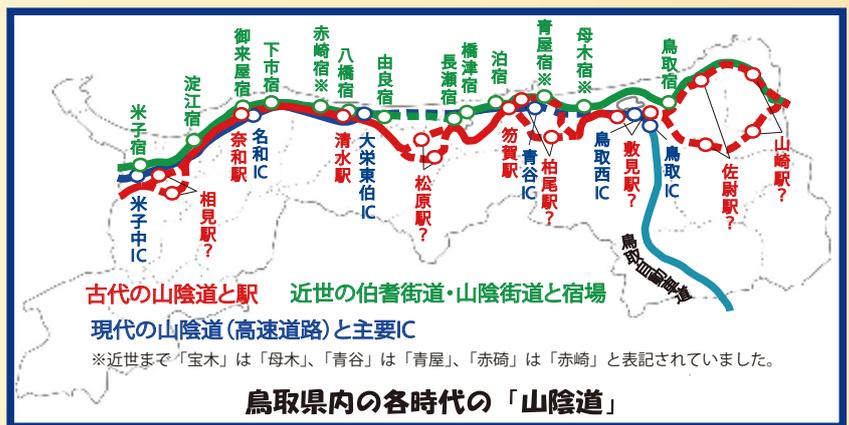


山陰道の今昔

そもそも「山陰道」とは、古代律令制における五畿七道のうち、現在の北近畿から島根県にかけての地域を指し、転じて畿内と山陰道諸国を結ぶ官道名にもなりました。官道の山陰道については、『続日本紀』養老七(723)年8月条に「因幡国に駅四処を加え置く」とあり、『延喜式』(10世紀前半)には、因幡国(鳥取県東部)の4駅、伯耆国(鳥取県西部)の5駅が記されています。各駅の位置には諸説ありますが、敷見駅は高住牛輪谷・高住宮ノ谷・松原田中の諸遺跡が位置する湖山池南岸説が有力です。

この山陰道ですが、都と国府を直線的に結ぶもので、在来の集落や民衆の利便との関係は希薄でしたから、古代末から中世にかけて中央集権体制の衰退につれて荒廃しました。しかし、近世になると、鳥取～米子間の海岸沿いの道が伯耆街道として発達しました。鳥取藩も、鳥取を起点として一里塚を築き、宿駅を置くなど、京に通じる山陰街道を整備しました。これは、今の国道9号線とほぼ同じルートとなります。

古代の官道と現代の高速道路は、2点間を最短距離で結ぶという共通目的があり、重複する部分も多いという説があります。実際に、鳥取市青谷上寺地遺跡では、古代山陰道らしき道が高速道路と近接して見つかっています。

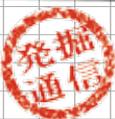


(公財) 鳥取県教育文化財団
調査室

〒680-1133
鳥取市源太 12 番地

TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス :

kyobun@bz04.plala.or.jp



桜の季節を迎えました。今年は昨年度中から事前準備を進め、4月からよ～いスタートで現地調査が開始されています。

鳥取では、雪が降るまでに現地調査を終えなければならないという宿命がありますが、現地調査期間がより長く確保できた分、より広くより深くのみならず、ますます精緻な調査めざして頑張ります!

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

鳥取西道路の遺跡から歴史をさぐる

～平成26年度の発掘調査～

平成26年度は、昨年度に引き続き、松原地区で1遺跡、常松地区で2遺跡、下坂本地区で1遺跡のほか、新たに大柵地区で1遺跡、高住地区で2遺跡の合計7遺跡を発掘調査する予定です。

昨年度の発掘調査では、松原田中遺跡で弥生時代から古墳時代にかけての地中梁^{ちちゅうばり}という特殊な構造をもった掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}が見つかったほか、弥生時代の銅鐸^{どうたく}や銅釧^{どうくしる}、分銅形土製品^{ぶんどうがたどせいひん}など他地域からの交流を示す遺物^{こしかけ}が出土しました。また、常松菅田遺跡では珍しい組み方^{こしかけ}でつくられた腰掛^{こしかけ}が出土するなど貴重な発見が相次ぎました。湖山池南岸から気高町にかけての歴史が明らかになりつつあります。

今年度も新たな発見があることが予想され、鳥取の歴史にさらに彩りを添えてくれるものと期待されます。今後の発掘情報をどうぞお楽しみに!!

①大柵遺跡

大柵遺跡では、過去の調査では弥生時代から古墳時代の土器や生活の跡が多く見つかっています。

これからの調査で、当時のくらしの様子が、よりいっそう明らかになっていくことが期待できます。

②高住牛輪谷遺跡

高住地区の谷を流れる三山^{みやまぐち}川^{がわ}の東岸にある遺跡です。

以前の調査では縄文時代の貯蔵^{ちよぞうけつ}穴、弥生～古墳時代のムラの跡や水田などが見つかりました。

また、古墳時代のユニークな形^{かまど}の竈^{とうかん}や陶棺^{とうかん}が出土しています。

③高住宮ノ谷遺跡

高住宮ノ谷遺跡は三山^{みやまぐち}川^{がわ}の西岸に位置しており、以前調査した高住平田遺跡^{たかすみひらたせき}の西側にあります。この遺跡は高住銅鐸^{たかすみどうたく}が発見された場所付近といわれ、世紀の大発見があるかもしれません!?



- ①大柵遺跡
- ②高住牛輪谷遺跡
- ③高住宮ノ谷遺跡
- ④松原田中遺跡
- ⑤常松大谷遺跡
- ⑥常松菅田遺跡
- ⑦下坂本清合遺跡

④松原田中遺跡

これまでの調査で弥生時代から古墳時代(約2,200年前～約1,500年前)のムラの様子が明らかとなっています。

今年度はその東側を調査し、ムラの東側の様子を明らかにしていきます。

⑤常松大谷遺跡⑥常松菅田遺跡

河内川東岸にある遺跡です。常松大谷遺跡では、古代・中世の集落跡や弥生時代の水田跡の調査が予想されます。

また、常松菅田遺跡からは、弥生～古墳時代の集落跡が見つかることを期待しています。

⑦下坂本清合遺跡

調査2年目です。今年度は、昨年度調査した区画(2区)を挟んで東西の2ヶ所(1-1区、3-1区)を調査します。

古代から中世にかけての建物跡や畠跡のほか、河川跡から様々な生活道具の発見が期待されます。